

米の消費動向について

みなさんは、毎日おこめを食べていますか。

2024年の「令和の米騒動」では、猛暑による米の収穫量の減少や流通の混乱などが重なり、米価が急騰し、小売店などにおいて、米の品薄状況が発生しました。

一方で、食の多様化、人口減少、少子高齢化及び健康志向の高まりを背景に、米の消費量は減少傾向にあり、かつて日本人の食卓の中心にあった米の主食としての位置付けは、大きく変化しているようです。

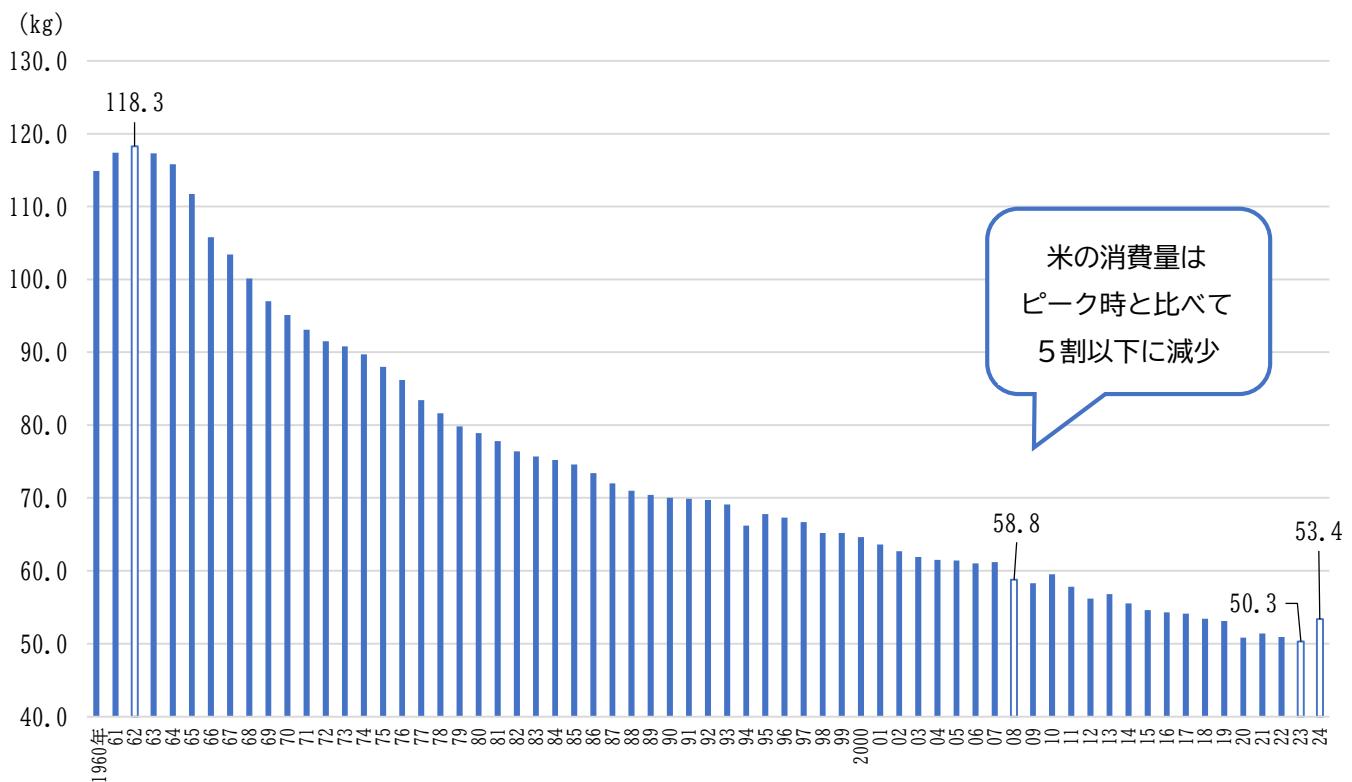
ここでは、米の消費動向について、「食料需給表」（農林水産省）、「国民健康・栄養調査」（厚生労働省）、「家計調査」（総務省統計局）などからみていきましょう。

1 米の消費量の推移について

日本人1人の1年当たりの米の消費量の推移について、「食料需給表」（農林水産省）からみると、米の消費量は1962年の118.3kgをピークに、減少傾向が続いています。

2008年には58.8kgまで減少し、ピーク時の5割を下回り、2023年には50.3kgとなり、約4割となりました。2024年は概算値で53.4kgとなり、前年を3.1kg上回りました。（図表1）

図表1 1人・1年当たりの米の消費量の推移（全国）

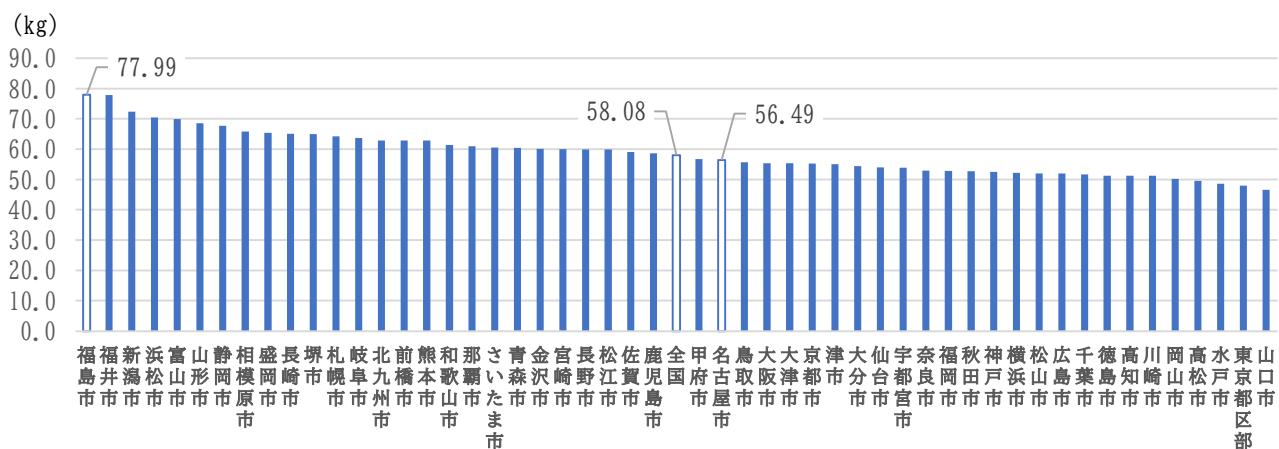


資料：農林水産省「食料需給表」

2 年間の米の購入数量等について

1世帯当たりの年間の米の購入数量について、「家計調査」(総務省)から都道府県庁所在市及び政令指定都市ごとに2022年～2024年の3か年平均をみると、第1位は福島市で77.99kgとなりました。名古屋市は第28位で56.49kgとなっており、全国平均の58.08kgとほぼ同等の結果となりました。(図表2)

図表2 1世帯当たりの年間の米の購入数量（2022年～2024年平均）

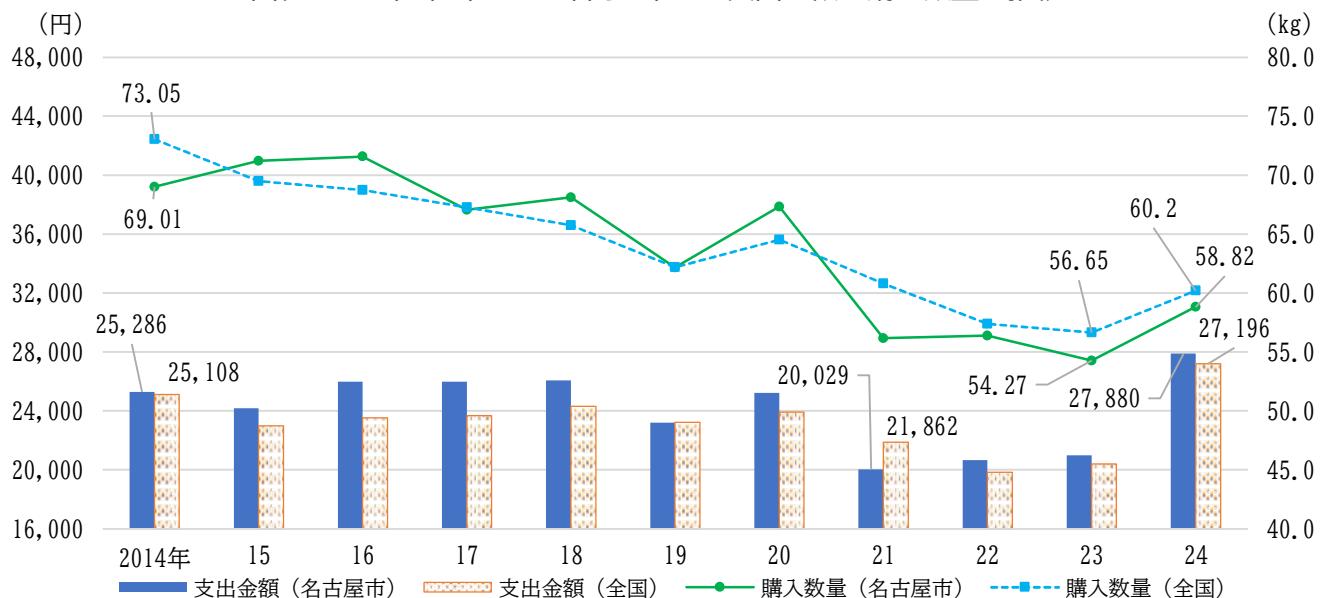


資料：総務省統計局「家計調査」二人以上の世帯

続いて、名古屋市の1世帯当たりの年間の米への支出金額と購入数量について、過去10年間の推移をみると、支出金額は2014年の25,286円から2021年に20,029円まで減少しましたが、2024年は27,880円と増加しました。購入数量は2014年の69.01kgから2023年に54.27kgまで減少しましたが、2024年は58.82kgと増加しました。

全国についても、名古屋市とほぼ同様の傾向で推移しました。（図表3）

図表3 1世帯当たりの年間の米への支出金額と購入数量の推移



資料：総務省統計局「家計調査」二人以上の世帯

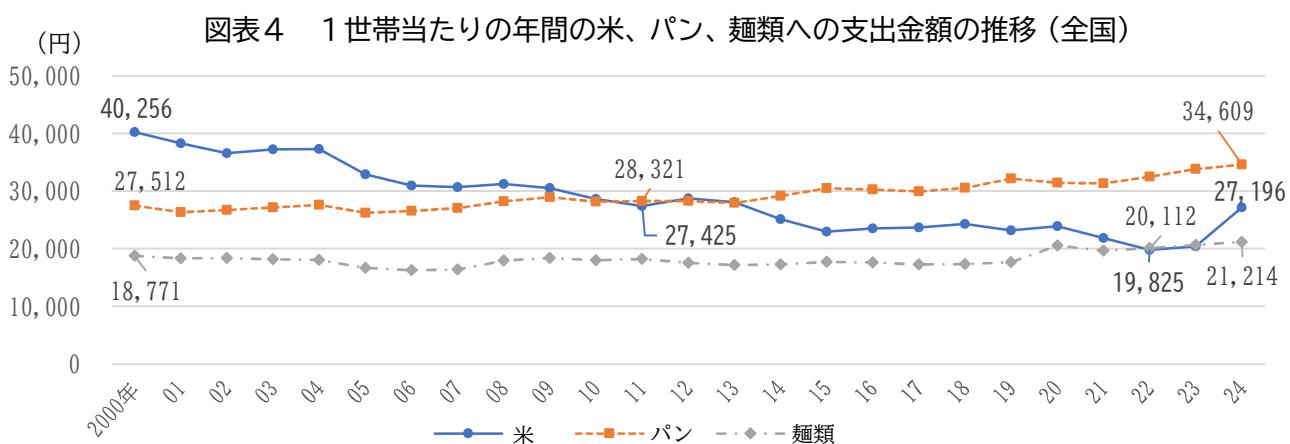
3 米、パン、麺類への支出金額の推移について

次に、「家計調査」(総務省)から、全国と名古屋市の1世帯当たりの年間の米、パン、麺類への支出金額について、2000年からの推移をみていきます。

まず、全国の推移についてみると、米への支出金額は、2000年の40,256円から減少を続け、2022年に19,825円まで減少しましたが、2024年は27,196円に増加しました。

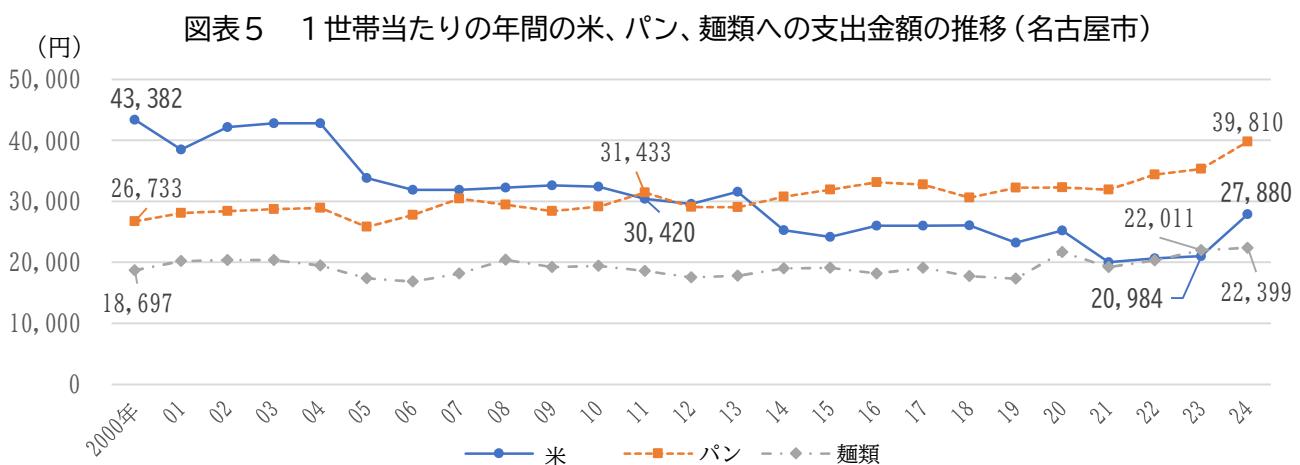
パンへの支出金額は、2000年の27,512円から徐々に増加し、2011年に米への支出金額を抜き、28,321円となりました。2024年は34,609円まで増加し、米、パン、麺類の中で最も高くなりました。

麺類への支出金額は、2000年の18,771円から横ばいに推移しています。2022年に20,112円となり、米への支出金額(19,825円)を抜きましたが、2024年には再び米への支出金額が麺類を上回りました。(図表4)



資料：総務省統計局「家計調査」二人以上の世帯

名古屋市についても全国と同様の推移がみられ、米への支出金額は減少しています。2011年にパンへの支出金額(31,433円)に抜かれ、2023年には麺類への支出金額(22,011円)に抜かれました。2024年のパンへの支出金額は39,810円となり、米、パン、麺類の中で最も高くなりました。(図表5)



資料：総務省統計局「家計調査」二人以上の世帯

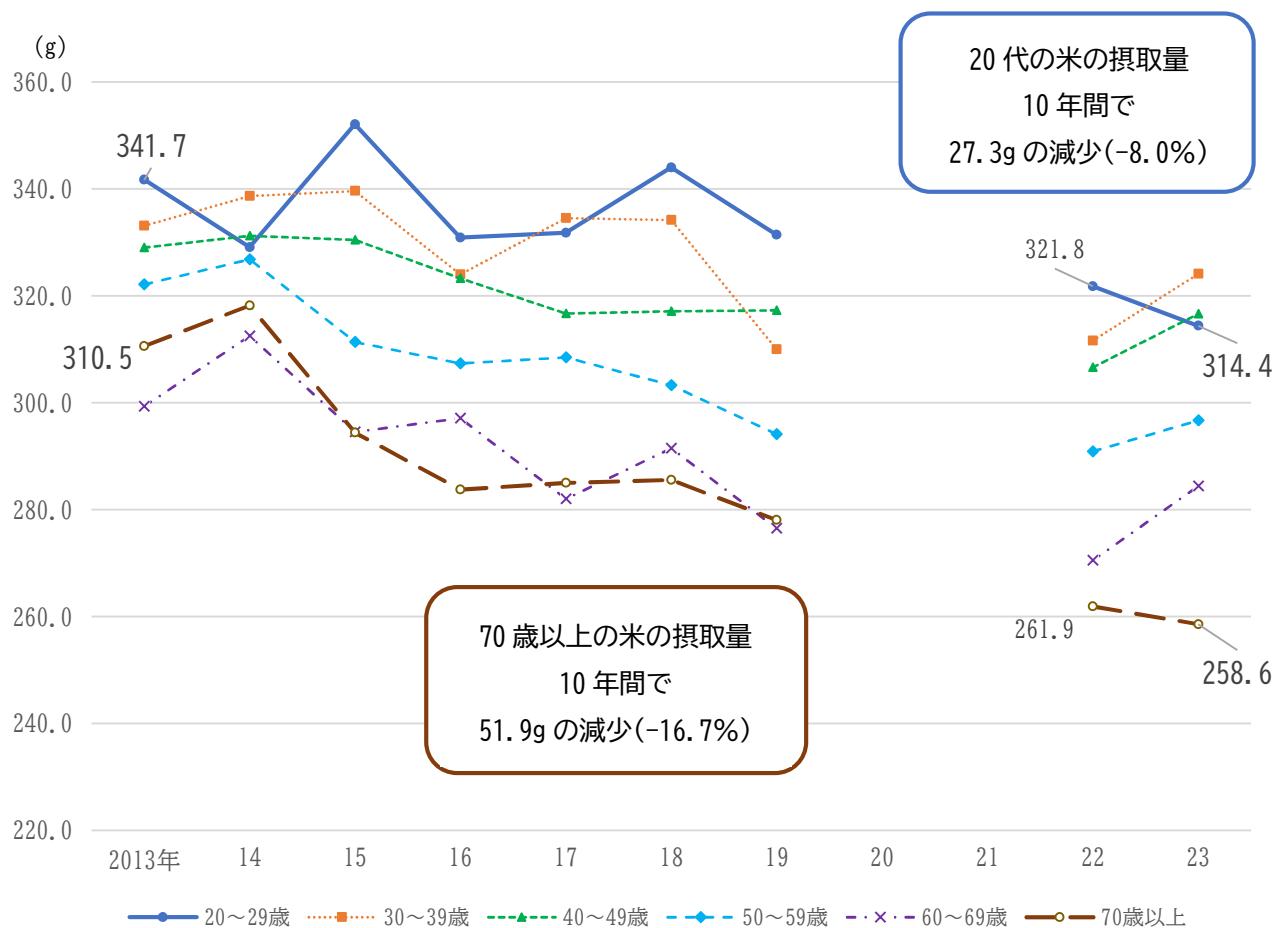
4 年齢階級別の米の摂取量の推移について

「国民健康・栄養調査」(厚生労働省)から、年齢階級別に1人1日当たりの米の摂取量について、2013年から2023年の推移をみると、全年齢で減少傾向にあることがわかります。

その中で、特に減少幅の大きかった20代と70歳以上の米の摂取量の推移に注目すると、20代は2013年の341.7gから2023年の314.4gまで27.3g減少、70歳以上は2013年の310.5gから2023年の258.6gまで51.9g減少しました。

70歳以上の米の摂取量の減少幅は、20代の米の摂取量の減少幅よりも大きいことがわかります。(図表6)

図表6 1人・1日当たりの米の摂取量の推移（年齢階級別）



(注) 2020年、2021年は新型コロナウイルス感染症の影響により統計がありません。

資料：厚生労働省「国民健康・栄養調査」

5 主食への年間支出金額とその構成割合

「家計調査」(総務省)から世帯主が29歳以下の世帯と70歳以上の世帯について、主食への年間の支出金額とその構成割合を2013年と2023年で比較すると、29歳以下、70歳以上の世帯どちらも「米」の占める割合が減少していることがわかります。

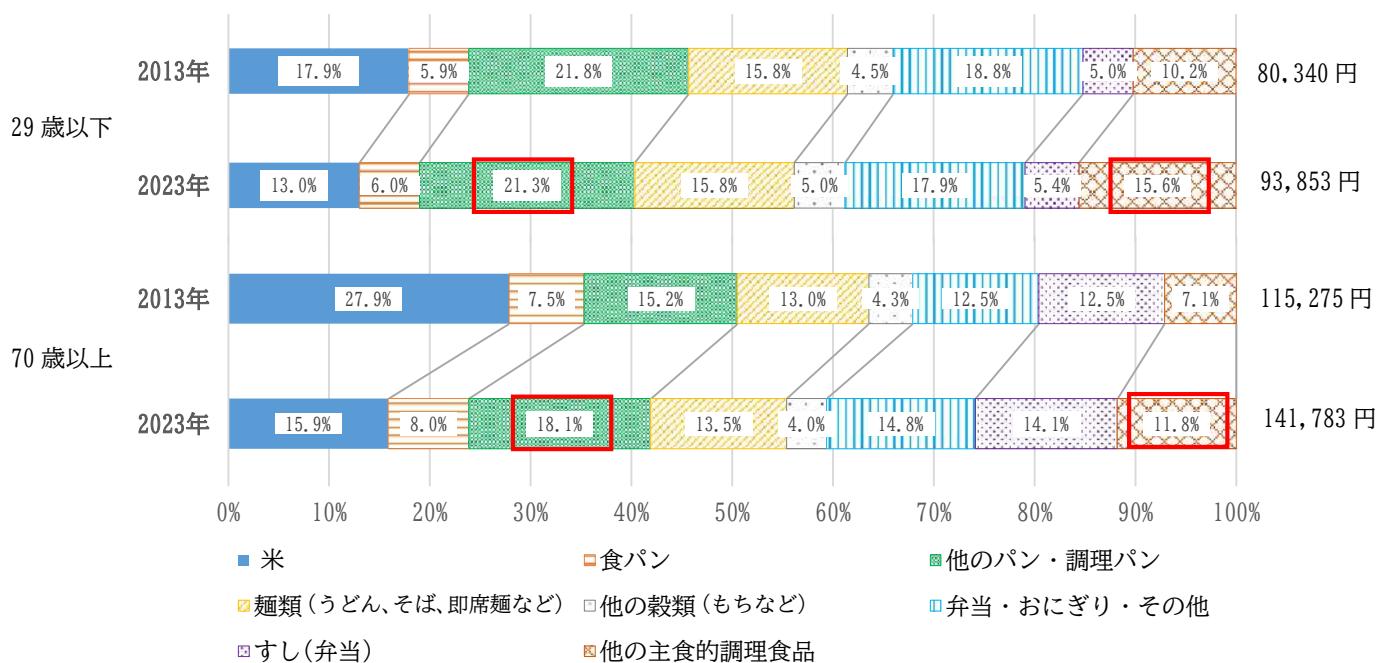
29歳以下の世帯では、2013年は「他のパン・調理パン」の占める割合が21.8%と最も大きく、2023年も同様の傾向となりました。

70歳以上の世帯では、2013年は「米」の占める割合が27.9%と最も大きかったのに対し、2023年は「他のパン・調理パン」の占める割合が最も大きくなりました。

また、どちらの世帯も冷凍ピザ、冷凍パスタなどの「他の主食的調理食品」の占める割合が増加しており、2013年と比べると、2023年は29歳以下の世帯で5.4%増加、70歳以上の世帯で4.7%増加しました。

「米」の占める割合が減少する一方で、「他のパン・調理パン」や「他の主食的調理食品」などの占める割合が増加している傾向がみられます。(図表7)

図表7 1世帯当たりの主食への年間支出金額とその構成割合



(注) 家計調査における項目名の内容例示

他のパン：パンのうち、基本的な原材料以外の食材を加え、初めから一つに形成されたもの。(例：あんパンなど)

調理パン：パンを材料として、それに加工食品、野菜などを挟んで調製されたもの。(例：サンドウィッチなど)

すし(弁当)：飲食店以外の持ち帰りのもの。冷凍は除く。(例：にぎりずし、まきずし、いなりずしなど)

他の主食的調理食品：弁当・おにぎり・その他、すし(弁当)、調理パンに分類されない主食的調理食品。冷凍も含む。(例：冷凍ピザ、冷凍パスタなど)

資料：総務省統計局「家計調査」二人以上の世帯

おわりに

日本人の米の消費量は減少傾向にあります。米への支出金額は減少傾向にある一方で、パンや麺類への支出金額は増加傾向にあるようです。

また、20代と70歳以上の年齢層では、米の摂取量が大幅に減少していることがわかりました。

食の多様化や簡便化等により、調理パンや冷凍ピザ、冷凍パスタなどの消費が増加していることもうかがえます。